

令和3年度 輪光福祉社会事業報告書

令和4年3月31日
社会福祉法人輪光福祉会

令和3年度は、新型コロナウイルス・オミクロンの感染が拡大して全国的に猛威を振るっている状況でいまだ終息もなく大変な状況です。こども園・養護事業・介護保険事業・障害事業では、新型コロナウイルス感染対策を毎週の感染対策会議を通じ共通認識し、利用者へ安心したサービスの提供につなげてきました。運営面は、介護・障害が厳しい状況でしたが輪光無量寿園・清寿園やこども園ともに新型コロナウイルスの感染者を出す事もなく、ご利用者様や園児の皆様には感染対策として行事の縮小等を行い、外部の参加を控え、ご利用者と職員での取り組みを実施し、ご利用者様・園児等へのストレスが溜まらない様に対応してきました。又、持ち込まない為の窓越し・Web面会や入室制限等・手洗いうがい・体温測定・マスク着用(確保)・手指消毒(消毒液等の確保)を継続徹底し、他県等の往来や接触等・外出自粛や休暇等の過ごし方をご利用される方や職員へも国の方針に沿い現在も続けています。3回目のワクチン接種も輪光無量寿園や清寿園は施設入所者と従事者(こども園含む)が受ける事が出来ました。今後も新型コロナウイルス感染対策が重要とされると思いますので、持ち込まないという事を全職員へ周知するような勉強会を行い、感染者を出さない様に取り組んでいきます。

次に各事業実施状況について

介護・障害部門で特養は、空床改善は出来ましたが、入院者が増えた事や入所への切替等で入所・ショートともに稼働が厳しい状況でした。入所の空所としては改善されましたが、入院が昨年対比として延べ約535日増で、年間入院実人数127人で延べ入院日数2,084日でした。原因は、下期も尿路感染・肺炎等の入院者や長期入院者(3か月近い方々)が増えた事だと思われます。特養平均稼働が3月末現在で92.7%(全体が91.0%)⇒昨年92.3%で0.4%のupの状況でした。特養の1日平均利用者は、多床50人に対し46.0人・ユニット40人に対し37.4人で、退所者は23名(うち死者20名・長期入院者3名・施設退所0名・在宅0名)で昨年より1名増でした。ショートステイは9人定員に対し、月平均6.5人でした。今後も新型コロナウイルス感染対策を徹底し、入院を増やさない対策を看・介護・ケアマネ・栄養・機能の職員で多職種連携・情報共有を徹底し、早めの対策等を行い、ショートも新規獲得の為に事業所訪問等の情報発信を強化していきます。

通所も同様に稼働が伸びず厳しい状況です。原因は新型コロナウイルス対策での訪問制限や課題である職員配置・送迎の見直し等の体制が出来ていない事も原因とされます。稼働としては、1日平均14.3人(うち予防給付3.9人)・保険外0.2人で、前年対比としても稼働が伸びず厳しい状況です。対策としては、各職員が協力の下にカラオケを使ったりした体操等やレク活動を充実させて行い、新型コロナウイルス感染対策を徹底しながら稼働改善する為の事業所訪問やキャンペーン等を考え取り組む事が重要とされます。

訪問は障害の稼働は、介護や障害も少しずつ改善はされていますが、職員配置としてヘル

パーの登録さんが自己都合で長期の休みがあり、新規を受けられない状況がある事も原因とされ、安定には繋がっていません。年間利用回数3,770件（内訳：介護1,789件・総合事業544件・障害支援1,180件・保険外257件）の4人体制（登録1人が長期休暇）で取り組みました。今後も新型コロナウイルス感染対策も継続しながら、体制を常勤2・登録3の配置で再構築し、質の高い支援に繋げ、ご利用者を獲得していきます。

居宅介護・障害相談においては、新型コロナウイルス感染予防の為の訪問制限があり、モニタや担を電話等で感染状況みながら対応しました。新規が増えても介護は入院や入所の切替で稼働の目標は達成できませんでした。実績として要介護平均51.41人・予防平均8.8人・総合事業(住民主体型通所)平均7人（保険外2人）の実績でした。障害相談は、介護支援同様に訪問制限での電話等のモニタ・担で感染状況を見ながら対応してきました。稼働は月平均18件で減少傾向にあります。原因としては、相談支援事業所が増えた事や相談フォローが確実に行えていない事で事業所変更等が要因と思われます。新規の方の獲得の為に基幹型支援センターなどへの声掛けで少しずつは増えつつあります。今後も新型コロナウイルスの感染対策を実施しながら、新規ご利用者様獲得に向けて毎月の居宅新聞の配布とサービス事業所との連携を図りながら、行政等への働きかけを行い、ご利用者の皆様が在宅で生活がより長く継続出来る様にお手伝いさせていただきます。

障害者グループホームについては、新型コロナウイルス感染予防の為の感染対策を実施し、外出や帰省制限を行いながら、新しい生活スタイルも2年目に入り継続した対応をしてきました。入所としては当初8名の入所で対応しましたが、年途中で1名が自立したいという希望から退所となりました。7名の入所の方は、どうにかコロナ禍の新しい生活を理解しているものの、数名の方が体調不良による不安定な時期もあり、1名が無断外出をされているという問題が発生しましたが、最近不穏はあるものの落ち着いては来ているようです。面談等を通して指導助言を行って対応しています。稼働、帰省は少ないが、1名の方が退所になり92%で2%downの状況です。又、行事等においては集団での実施を感染が少ない時期に実施し、コロナ禍の状況を見ながら、帰省や少人数での外出やホーム内で出来るレク等を行い、ストレス解消に努めてきました。今後も新型コロナウイルスの感染対策を実施しながら新しい生活スタイルを取り入れて、ご利用者の安心安全な生活を提供していきます。

上記でも述べましたが令和3年度は新型コロナウイルス感染対策という事で面会（12月上旬～12月24日までの限定で研修室内での面会を実施）や窓越しやWeb面会を行い、行事については家族や外部の参加もせずにご利用者様と職員だけで特養中心に実施しました。開催行事としては時間短縮や参加者を制限し、運動会・秋祭り（昼間）・夜間想定の日間の消防訓練・やごろうどん祭り見学（中止）・テラスビアガーデン（弁当式での取り組み）・輪光介護セミナー（2回とも中止）・ユニット外出等については感染状況を勘案しながら実施しています。職員処遇としては、特定処遇改善手当や処遇改善支援助成金などの支給を行いました。又、職員確保が厳しく、年の途中からの退職や体調不良による休みの不足配置を派遣職員で補いながらも厳しい状況です。技能実習生も昨年に入職した2名のみでその他の特定や技能実習生がコロナウイルス感染対策で入国が出来ない状況です。不足対策としてシルバー人材活用(2名)や派遣(4名)・人材紹介・ハローワーク紹介で対応していますがなかなか厳しい状況です。職員の質の向上の為の研修会等を毎月取り組み、特に新型コロナウイルス感染対策においては看護職が中心になり基本的な事(マスク着用や手洗い・うがいや防護服の着用や対応手順等)に関しての知識を深める為に数回の勉強会と外部の講師（曾於医師会立病

院の感染認定看護師)を招いて実施し、感染対策や予防に繋げています。職員会議前や定期勉強会は職員が中心になり研修参加報告を交えての勉強会を行い、安心安全なサービスに繋げていきます。又、特養が施設備品点検で車いす等を行い、ハード面において入れ替えや購入で、大型洗濯機・発電機・特殊浴槽の購入・陽だまりのベッド(5台)・電話機器の入れ替え購入や通所の送迎車の入れ替えなどを行っています。人材育成においてはフォローアップの重要性を理解して頂き、指導体制を再構築し、知識向上については県老協等の研修にWebを使って参加しました。

こども部門は、保育所から幼保連携型認定こども園(定員:1号5名 2.3号30名)に移行し、輪光にしか出来ないあたたかく心を添えたまことの保育の更なる充実を図りました。サーモマネージャー・消毒液ディスペンサー・スタッキングベット等をコロナ対策用品として購入し、尚一層のコロナウイルス感染予防対策を実施しました。各行事も参加人数の制限や時間短縮・内容の検討等を行いつつ出来る限り皆の思い出に残る意義深い行事が実施できるようにしました。ホームページのリニューアル、インスタグラムやブログの随時更新、So good FMの生レポート、子育てサロン(りんりんキッズ)の開催、曾於市子育てガイドブックへの広告掲載等で情報発信や広報活動につとめました。オンライン研修等への参加や職員勉強会での資質向上、保護者役員会開催等で保護者のニーズに応えながらより信頼感や満足度が高まるような園運営に取り組みました。保育実績は、月平均26名で延べ310名(うち、乳児保育は月平均4名で延べ43名)、学童保育実人数15名で延べ2385名、延長保育実人数9名で延べ108名、一時保育実人数7名で延べ42名の利用がありました。

養護部門は、令和3年度は昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて対外的行事が殆どできませんでした。ご利用者の状況は12名の新規入所者に対し11名の退所がありました。入院は19名・退院17名で入院日数は834日間でした。ショートステイは7名あり155日の利用がありました。3月31日時点で入所者34名(男性13名・女性21名)・平均年齢81.9歳・最高齢者(男性96歳・女性98歳)・最低齢者(男性69歳・女性70歳)・自立11名・要介護1(男性4・女性10)・要介護2(男性2・女性1)・要支援1(男性2)・要支援2(女性4)の平均介護度は0.97となっております。高齢化や認知症の進行で22件の転倒事故等を防ぐことができませんでした。職員状況としては、年間を通し16名体制でした。事務員と看護師(パ)の2名が欠員でしたが他の職員が補うことで支障はでませんでした。又感染対策を徹底することから清掃・消毒業務を行う派遣職員を1名配置しました。施設の管理では、設備や備品の老朽化により給湯や水周りの配管が腐食したため修理しました。更に漏電ブレーカー・エアコン・誘導灯・網戸・畳・洗面台建具・浴室・洗米機・餅つき機を改修した他、液晶テレビ・包丁まな板殺菌庫・製氷機・掃除機・小型洗濯機を購入しました。又大型洗濯機・ガス仕様の乾燥機は市に購入してもらいガス設備を整えました。老朽化備品や新規に購入した備品に対しては、同時に備品廃棄処分伺い書に基づき処分したところです。

最後に輪光福祉会は、曾於市養護老人ホーム清寿園の指定管理者として3期15年に亘り管理して参りました。更新時期にあたり、継続を希望する申請書を提出しましたが、指定管理者として指定を受けることができませんでした。これまで大きな事故や不正をしてないだけに残念でなりません。指定期間である令和4年3月31日までしっかり使命を果たすことができました。

輪光福祉会全体として令和4年度も新型コロナウイルス感染対策を徹底しながら、各事業所で連携し、コロナ禍で出来る地域との関わりを考え、地域との関係作りを再構築し、一

人でも多くの方々に輪光のサービスを利用する機会を増やしていきます。

最後に、コロナ禍ではありますが、地域との関わりを持つために毎年2回実施している輪光介護セミナーも地域の皆様のニーズに沿った計画立案（感染対策）と開催の可否を思案し、同様にボランティアグループGENKIの活動としての“地域の空き缶拾いや近隣小学校での立哨等”を実施できる様に感染対策等を考えながら地域の方に更に理解して頂くために地域に出向きアピールしていきます。又、“ペットボトルのふたやプルタブの回収”“出前授業”も継続していきます。